

平成 26 年度 自己点検・評価書

佐賀大学

アドミッションセンター

I. アドミッションセンターの目的と概要	3
II. 領域別評価	
① 教育の領域（学生の受入に関する事項）	
観点①	4
② 研究の領域（学術・研究活動に関する事項）	
観点①	5
③ 組織運営の領域	
観点①	6
観点②	16
III 平成26年度アドミッションセンター報告書（添付資料）	

I アドミッションセンターの目的と概要

佐賀大学アドミッションセンター（以下、「センター」と略記）は、平成19年9月19日付のセンター要項に基づき同年10月1日に設置された。センター長（併任：1名）、専任教員（1名）で構成される。センターの目的と業務内容は以下のとおりである。

（新）

【目的】

センターは、入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。

【業務】

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. 入学者選抜等に係る調査研究に関すること
5. その他入学者選抜に関すること

（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター規則より抜粋）

センターで実施した調査・研究および活動記録は、年度末に「アドミッションセンター報告書」にまとめられる。本自己点検・評価書では、「平成26年度アドミッションセンター報告書」（添付資料）を根拠資料とし、点検および評価を行う。以下、同報告書は、「報告書」と略記する。

II 領域別評価

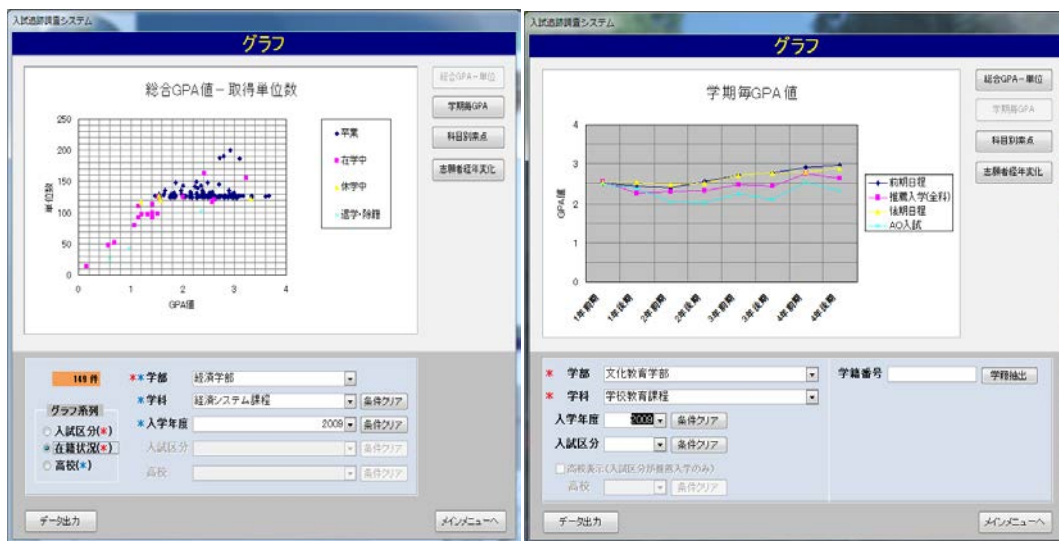
① 教育の領域（学生の受入に関する事項）

【観点①】 入学者の学修状況等を把握するための追跡調査を実施し、エビデンスに基づく議論を行うための環境を整えているか。

（観点に係る状況）

平成 26 年度に実施した追跡調査は、「非ストレート卒業者の単位取得推移分析」と「正規教員・公務員の就職状況と入試成績の関係分析」である。前者は、標準的な単位取得状況からみて、いわゆるストレート卒業できない学生がどのような単位取得の経過をたどるのかを分析したものである。後者は、教員と公務員という職業に就いた学生の入試成績との関係性を分析したものである。また、前年度に開発した追跡調査システムを利用し、入試区分別の学修状況を把握した。

追跡調査システムの画面



（分析結果とその根拠）

追跡調査システムを用いた効率的な入学者の学修状況把握とともに、年度ごとに多角的な観点から入学者の特性が分析され、データの蓄積が進んでいる。

以上のことから、入学者の学修状況を把握するための追跡調査を実施し、エビデンスに基づいた議論ができる環境が整っていると判断できる。

② 研究の領域（学術・研究活動に関する事項）

【観点①】 センター業務の発展に寄与する研究活動が活発に行われているか。

（観点に係る状況）

センターの専任教員（1名）は、研究出版物の発行、学会・シンポジウム等における研究成果の公表、他大学・研究機関との共同研究に従事している。平成26年度のセンターの専任教員による研究活動の実施状況は表1の通りである。

表1. 専任教員の研究実績（平成26年度）

分類	実績
原著論文	西郡大.「入試制度設計がもたらす志願者動向への影響－後期日程の制度設計を事例に－」『大学入試研究ジャーナル (No25)』,pp.37-42,2015年3月. [査読有]
原著論文	Teruya Minamoto, Dai Nishigori, In uencing University Staff to Improve Their Activities:A Case Study of Saga University,2014 IIAI 3rd International Conference on Advanced Applied Informatics,395-398.
原著論文	塚完・木村拓也・西郡大・山田礼子.「短期大学におけるエンゲージメントの構造-重回帰分析,分散分析,多重対応分析を用いた検討-」『短期高等教育研究紀要』短期大学コンソーシアム九州紀要,vol5,pp.15-24.
報告書	西郡大「高校教員からみた看護系進学希望者の特徴」『医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題－看護職志望者の適性と大学入試』(平成22-26年度科学研究費補助金研究基盤研究B最終報告書 課題番号:22390405) pp.151-164,2015.3.
報告書	西郡大「教育実習生の実施記録管理システムの構築」『高度な実践力を身につけた科学教師の育成-長期の教育実習とその効果に関する研究-』(平成22-26年度科学研究費補助金研究基盤研究B最終報告書 課題番号:22300267) pp.15-18,2015.3.
学会発表	西郡大.「後期日程における入試制度設計-過去最高の志願者数になった背景-」,全国大学入学者選抜研究連絡協議会(第9回大会,いわて県民情報交流センター),発表論文集,pp.57-62.2014.5.30(口頭発表).
学会発表	西郡大・末次剛健志・北島博文・木塚徳男・皆本晃弥.「佐賀大学版IRの影響機能とその効果」.大学教育学会第36回大会(名古屋大学),発表要旨集録,pp.268-369.2014.6.1(口頭発表).
学会発表	西郡大「大学の出前講義は,高校生にどのような変化をもたらすのか?」.キャリア教育学会第36回大会(琉球大学),研究発表論文集,pp.118-119.2014.11.23(口頭発表).
科研費(代表者)	高大接続の観点からみる高等学校普通科のキャリア教育に関する実証的研究(若手研究B)
科研費(分担者)	医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題－看護職志望者の適性と大学入試(基盤研究B 研究代表者:倉元直樹<東北大学>)
科研費(分担者)	高度な実践力を身につけた科学教師の育成-長期の教育実習とその効果に関する研究試(基盤研究B 研究代表者:古屋光一<北海道教育大学>)
科研費(分担者)	大学入試における多面的・総合的な評価方法の開発-テストレットモデルの応用-(挑戦的萌芽研究 研究代表者:倉元直樹<東北大学>)

（分析結果とその根拠）

研究活動の内容とセンターの業務との接点が強化されている。専任教員は、入学試験や高大接続に関する課題を専門的に議論する全国規模の研究大会やその他の関連学会において研究発表を行っているだけでなく、査読付きのジャーナルにも論文が掲載されている。また、科研費においては、個人研究で採択されるだけでなく、国内で中心的な活動をしている研究活動の分担者にも選ばれており、活発的な研究活動が行われていると判断できる。

③ 組織運営の領域

【観点①】 アドミッションセンターの業務が十分に遂行されているか。

観点①-1 入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援が十分に遂行されているか。

(観点到に係る状況)

■ 新学部設置に向けた入試設計の支援

平成 28 年度から設置される予定の「芸術学部（仮称）」と「教育学部（仮称）」の入試制度設計の支援を行った。具体的には，アドミッション・ポリシーの策定，一般入試（前期日程）における地歴公民 2 科目型・理科 2 科目型の枠組み設定（教育学部），3 科目型・4 科目型の枠組み設定（芸術学部）などを検討するための支援を行った。

■ 新学部設置に向けたニーズ調査

新学部設置のために文部科学省に提出する資料として，高校生および高校教員のニーズ調査（アンケート調査）を行った。教育学部（仮称）では，佐賀県（20 校），福岡県（10 校）を対象として 3,377 名の生徒，87 名の教員からアンケートを回収した。芸術学部（仮称）では，佐賀県（20 校），福岡県（63 校），長崎県（15 校），熊本県（29 校），大分県（21 校），宮崎県（7 校），鹿児島県（11 校）を対象として，6,410 名の生徒，348 名の教員からアンケートを回収した。なお，芸術学部（仮称）においては再調査として，追加で県内の生徒 260 名を対象にアンケート調査を行った。これらのアンケートを分析し，設置申請のための資料とした。

■ 理工学部推薦入試Ⅱの合否判定基準決定に関する支援

平成 27 年度より導入される理工学部推薦入試Ⅱにおいて，合格者の基準点をどのように設定するかについて複数の案を提案した。

■ 理工学部前期日程における「英語」導入に関する支援

近隣の国立大学の工学部系において前期日程個別試験に英語を導入する動きを受け，入学者の英語力分析（センター試験の成績），近隣の工学部系の志願者動向等を分析し，平成 28 年度入試より前期日程の個別試験に英語を導入するための検討を支援した。

■ 入試の PDCA サイクル機能強化に向けて

今後の入試改革，トラブル発生時の説明責任，入試設計の共有，認証評価等への対応を強化するために，各入学者選抜の具体的な手続きである「合否判定基準」「書類判定基準」「面接試験判定基準」などの選考基準や実施体制等を「選考・評価実施要項」として取りまとめた。

さらに、慣例的に行われてきた入試制度の見直しについて、現状の課題点、見直しによる効果、変更後の検証手段などを明記する「入試制度変更届」の作成し、PDCAサイクルを実質的に機能させるための体制を強化した。

(分析結果とその根拠)

平成28年度より新たに設置される予定の「芸術学部(仮称)」と「教育学部(仮称)」の入試制度を設計するための支援が行われているだけでなく、既存学部である理工学部の推薦入試Ⅱや個別試験の英語導入の提案など、積極的な入試制度改善の支援がなされている。さらに、PDCAサイクル強化の観点から「選考・評価実施要項」が作られ、入試制度や方法等の改善に向けた仕組みが強化されている。

以上のことから、入学者選抜の制度、方法等の設計に関する支援は十分に遂行していると判断できる。

観点①-2 入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されているか。

(観点到係る状況)

■ 各種説明会等の実施

① 受験産業等が主催する進学説明会

受験産業等が各地域で企画する他大学や専門学校と合同で実施する個別ブース形式の説明会である。参加地は、本学志願者データおよび前年度の来場者数、相談者数等の実績を踏まえて選定し、アドミッションセンター教員および入試課職員で参加している。なお、近年では、入試広報の効率性の観点から同形式の説明会の参加を減らす一方、多くの参加者あるイベント(例えば、夢ナビ)については、参加費が有料であっても積極的に参加する方針にしている。

名称	主催・企画	開催日	開催地	相談者
大学・短期大学進学相談会	栄美通信	4/21	佐賀：グランデはがくれ	48
九州地区進学説明会	貿易広告社	5/28	久留米：ハイネスホテル久留米	25
九州地区進学説明会	貿易広告社	5/29	福岡：ホテルニューオータニ博多	65
春季進学ガイダンス	日本ドリコム	6/5	久留米：久留米リサーチパーク	26
春季進学ガイダンス	日本ドリコム	6/18	佐賀：ホテルニューオータニ	42
夢ナビライブ 2014 in 名古屋	フロムページ	7/22	名古屋：ポートメッセなごや	15
夢ナビライブ 2014 in 福岡	フロムページ	10/19	福岡：マリンメッセ福岡	156

③ 高校や予備校等で実施する大学説明会（センター対応のみ）

高校や予備校などから大学説明等の依頼が個別にあった場合に対応する説明会で 23 箇所に参加した（昨年度は 23 箇所）。なお、昨年度に試行的に実施した「出張進学相談・説明会」を今年度より本格的に実施しており、同説明会の依頼についても含まれる。

日程	実施場所	参加者
6.12	福岡県立古賀竟誠館高等学校	生徒：35名
6.27	福岡県立筑紫中央高等学校	生徒：60名
6.28	福岡舞鶴高等学校	生徒・保・教：104名
7.16	佐賀県立鳥栖高等学校	生徒・保・教：52名
7.23	福岡県立武蔵台高等学校	生徒：40名
7.24	長崎県立長崎東高等学校	生徒：20名
7.25	福岡県立福岡中央高等学校	生徒：85名
7.28	福岡工業大学附属城東高校	生徒・教：25名
7.29	福岡県立柏陵高等学校	生徒：30名
7.30	筑陽学園高等学校	生徒：71名
7.31	福岡県立朝倉高等学校	生徒・保・教：52名
8.1	九州産業大学附属九州高等学校	生徒：150名
8.19	福岡県立朝倉東高等学校	生徒：40名
8.21	福岡県立福岡西陵高等学校	生徒・教：33名
9.27	筑紫女学園高等学校	生徒：55名
10.2	佐賀県立三養基高等学校	生徒：60名
10.16	久留米ゼミナール（佐賀校）	生徒：50名
12.2	福岡県立朝倉東高等学校	生徒：300名
12.3	北九州予備校（小倉校）	生徒：50名
12.3	北九州予備校（博多校）	生徒：60名
12.4	北九州予備校（長崎校）	生徒：40名
12.5	北九州予備校（大分校）	生徒：20名
11.10	筑紫台高等学校	生徒：262名

③ 高校からの大学訪問において実施する説明会

高校から本学への訪問依頼があり，訪問者に対して本学の説明を行うものである。要望があれば，訪問者に対して学内の施設見学を行っている。対象は高校教諭，生徒，PTA と多岐にわたり，41 校に実施した（昨年度は 32 校）。

日程	訪問高校	対象
5.16	宮崎県立宮崎工業高等学校	教諭：1名
5.20	徳島県立徳島科学技術高等学校	教諭：1名
5.28	霧島市立国分中央高等学校	教諭：1名
6.7	龍谷高等学校	生徒：82名
6.19	福岡県立糸島高等学校	生徒：50名
6.19	福岡県立筑前高等学校	生徒：115名
6.20	長崎県立波佐見高等学校	生徒：22名
6.23	筑紫台高等学校	生徒：60名
6.24	久留米市立南筑高等学校	PTA：50名
7.1	福岡県立筑紫高等学校	PTA：130名
7.1	熊本県立熊本商業高等学校	教諭：1名
7.2	佐賀県立神埼清明高等学校	生徒：40名
7.3	宮崎県立宮崎商業高等学校	教諭：1名
7.14	福岡県立福岡工業高等学校	生徒：38名
7.30	京都府立海洋高等学校	教諭：1名
8.4	佐賀県立唐津西高等学校	PTA：22名
8.6	熊本市立必由館高等学校	生徒：23名
8.11	長崎県立大村高等学校	PTA：27名
8.20	静岡県立静岡商業高等学校	教諭：1名
8.22	長崎県立佐世保北高等学校	生徒：20名
8.28	柳川高等学校	生徒：70名
9.17	福岡県立福岡西陵高等学校	生徒：66名
9.22	福岡県立久留米高等学校	PTA：56名
9.26	佐賀県立香楠中学校	生徒：120名
10.2	熊本県立東陵高等学校	PTA：40名
10.3	熊本県立熊本西高等学校	PTA：44名
10.3	福岡県立小郡高等学校	PTA：62名
10.7	福岡県立大川樟風高等学校	PTA：21名
10.8	福岡県立福岡中央高等学校	PTA：73名
10.9	岡山県立総社南高等学校	教諭：1名
10.9	福岡県立春日高等学校	PTA：85名
10.10	福岡県立北筑高等学校	PTA：34名
10.22	佐賀県立佐賀商業高等学校	生徒：37名
10.23	福岡県立香椎高等学校	生徒：40名
10.28	福岡県立新宮高等学校	生徒：40名
11.18	熊本県立鹿本高等学校	PTA：16名
12.4	佐賀県立鳥栖商業高等学校	生徒：40名
12.11	福岡県立糸島高等学校	生徒：41名

2.10	長崎県立長崎工業高等学校	教諭：1名
2.20	長崎県立長崎南高等学校	教諭：2名
2.20	宮崎県立都城商業高等学校	教諭：1名

④ 九州地区国立大学合同説明会

九州地区の国立大学が合同で行う大学説明会である。平成 26 年度は福岡県、熊本県の 2 会場で実施した。各合同説明会の総参加者数と本学説明会への参加者数および個別ブースへの相談者数の実績を示す。

平成 26 年度実績（九州国立大学合同説明会）

日程	実施場所	総参加者数	本学大学説明会参加者	本学個別相談ブース相談者数
7/6	福岡	1,410 (+160)	195 (+15)	142 (+25)
7/12	熊本	1,021 (-83)	96 (-59)	87 (+7)

()内の数値は、前年度との差分

⑤ 高校教員対象の入試説明会

平成 24 年度までの高校教員を対象とした説明会は「佐賀大学入学試験に関する高等学校との連絡会」という形式で実施していたが、平成 25 年度より九州・山口地区を対象に、進路指導を担当する教諭が知りたいと思われる情報を厳選した入試説明会を新たに企画した（佐賀会場では「佐賀大学入学試験に関する高等学校との連絡会」と同時開催）。平成 26 年度は、前年度参加者の少なかった山口での開催を取りやめ、以下の会場で説明会を行った。

平成 26 年度実施実績

実施日	開催地域	会場	参加高校数	参加者数
7/2 (水)	熊本市	くまもと県民交流館「パレア」会議室 2	29 校	36 名
7/8 (火)	長崎市	長崎市民会館文化ホール大会議室	10 校	13 名
7/9 (水)	北九州市	北九州市立商工貿易会館 501 会議室	12 校	13 名
7/11 (金)	福岡市	福岡県教育会館第 2 会議室	37 校	49 名
7/14 (月)	宮崎市	宮崎市民文化ホール会議室	7 校	8 名
7/15 (火)	鹿児島市	鹿児島県青少年会館中会議室	12 校	13 名
7/17 (木)	佐賀市	佐賀大学 大学会館 2 階多目的ホール *「佐賀大学の入試に関する高等学校との連絡会」と同時開催	55 校	66 名
7/18 (木)	大分市	ホルトホール大分 201 会議室	20 校	21 名
合計		8 会場	182 校	219 名

■ オープンキャンパスの企画・実施

昨年度に引き続き、平成 26 年度オープンキャンパスは、過去最高の 5,367 名（731 名増）を記録した。過去 5 年間にわたり毎年参加者が増加している。今年度は、午後のプログラム名を参加者に分かりやすい表現に見直すことで、参加者の興味・関心を高める工夫を行った。また、学部以外のプログラムとして、国際交流推進センター、男女協同参画推進室、図書館などの企画に加え、今年度より美術館のイベントが新たに加わった。センターの企画では、学生によるオープンキャンパスツアーの実施、スタンプラリーなどを実施した。一方、参加者アンケートの回収率を高めるための仕組みとして、アイスクリームとの交換を実施し、回収率 30%と昨年度（24.8%）よりも高い回収率を得ることができた。

■ 佐賀大学アプリの運用

昨年度に開発した佐賀大学アプリの運用を行った。同アプリは、大学案内の動画閲覧機能に加え、キャンパスのナビゲーション機能、キャンパス探検（スタンプラリー）、合格応援記念撮影、学生メッセージなどの機能がある。使用マニュアルを作成して、入学式に新入生に配布し、教室や施設の場所を調べるためのツールとしての利用を促している。



■ 佐賀大学案内冊子の編集

「大学案内 2015」では、最近の話題として、新たに設置予定の「芸術学部（仮称）」や「教育学部（仮称）」の紹介を行うとともに、キャンパス整備の話題などを盛り込み、佐賀大学における最新の取り組みを発信した。また、これまで同様、佐賀大学アプリを利用した動画閲覧等のコンテンツの充実も継続的に図っている。本案内冊子は、中身の詰まった受験生のニーズに応える大学案内を目指しており、160 ページというページ数は、九州地区の国立大学の中で最も多い。

■ 学生が創る学生情報誌『探'SU』の発刊

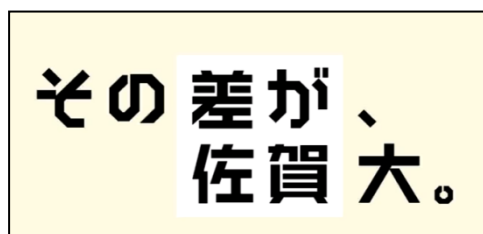
昨年度に引き続き、平成26年度の教育改善支援経費の支援を得て、佐賀大学の学生を応援する目的で情報誌「探'SU」を3月末に発行した(第2号)。今年度はコアメンバーの学生、教職員(アドミッションセンター・入試課)及び学外協力者(編集デザインを行う業者等)で、取材、編集や文章の書き方、スケジュール管理などについて、学びながら情報誌の作成に取り組んだ。今後、継続的に発刊していく予定であるため、次号でさらに様々なスキルを身につけていくことが可能である。また、学生組織の強化という点においては、大学情報誌をきっかけに、新たなメンバーを加えることで、学生中心の活動を広げていくことが期待される。

■ 学長の高校訪問(佐賀)

平成24年度から、生徒を送り出す高校に本学の取り組みや教育研究活動についての理解を深めてもらうとともに、高校からの意見・要望等を大学運営に反映させることを目的とした「学長の高校訪問」を実施している。平成24年度は、佐賀県内の高校23校。平成25年度は、志願者が多い福岡県内の高校10校を訪問し、平成26年度は、再度、佐賀県内の14校を訪問し、一昨年度訪問後の佐賀大学における改革の進展や入試、就学、進路状況、活躍する学生などについて意見交換を通して高大連携の強化を図った。センターは、訪問に随行するだけでなく、各高校の出身者の入試、就学、進路状況等の情報を分析・整理するなどして、大学と高校のトップによる意見交換を促すための支援を行った。

■ 佐賀大学の新しいブランディング戦略

平成28年度に設置予定の新学部に合わせて、「変わる佐賀大学」をアピールするために、福岡の広告代理店と新たなブランディング戦略を計画した。福岡地域を中心としたテレビCMや本学のトップホームページを活用して、「そのサガ、サガ大」というキャッチコピーをアピールすることで、佐賀大学の存在感を高めるというものである。また、同キャッチコピーは、シャープペンシルや定規などのグッズにも反映させることで、大学説明会等に参加した生徒への配布を通して、認知率を高めている。



テレビCM



ホームページ

■ 佐賀大学のイメージ動画作成（空撮）

佐賀大学キャンパスを訪れたことがない人でも，どのようなキャンパスの雰囲気であるのかを示すために，空撮によるキャンパス動画を作成した。大学説明会等での利用やホームページ上での閲覧が可能になっている。



■ 佐賀大学美術館前に合格発表掲示板の移動

一般入試の合格発表場所（合格発表掲示板の位置）を大学会館から美術館の前に移動した。マスコミ各社の合格発表報道の写真や映像等に，佐賀大学のシンボルの1つである美術館が背景として映ることで，佐賀大学のイメージを浸透させることを目的としている。



■ 新学部開設の横断幕を設置

市民に佐賀大学の新しい学部を知ってもらうことを狙い，本庄キャンパスの東側道路に横断幕を設置した。



■ ジョイントセミナーの管理・運営

本学では、平成 12 年度から高等学校と大学との連携を図ることを目的とした高等学校への出張授業（ジョイントセミナー）を実施しており、高等学校からの希望に応じた内容で本学教職員が高等学校に出向き、佐賀大学の学部・学科等の紹介、希望する内容の講義や実験、入学者選抜要項の説明、大学生生活・就職状況の説明等を行っている。今年度から、平成 28 年度設置予定の「芸術学部（仮称）」と「教育学部（仮称）」を新たにメニューに加えた。

ジョイントセミナーの実施対象校の選定は、佐賀県下の全高等学校及び過去 4 年間の志願者数が多い高校（佐賀県以外）の上位 80 校を対象としている。ただし、強く実施を要望される場合に限って、個別対応している。

今年度は、51 高校（平成 25 年度は 42 高校）から依頼があった。下記表に、地域別、公私立別、講義コード別の内訳を示す。平成 26 年度は、のべ 168 名（平成 25 年度は 151 名）の教員が高校を訪問し、ジョイントセミナーを実施した。

■ 新しい高大連携活動の開発：「教師へのとびら」

高大連携活動には、様々な活動形態があるが、大学教員による「出前講義」は最も一般的なものである。しかしながら、多くの大学で行われている高大連携活動の課題は、それぞれの活動が「単発的」であり、参加する高校生にとって、「継続性」がないことである。例えば、出前講義によって学習意欲や学問的な興味・関心が高まっても、その高まりは一過性のものであり、継続的なものとして定着しない現実がある。こうした課題を解決するために、佐賀大学では、「継続・育成型」の高大連携活動「教師へのとびら」を平成 26 年度から開始した。

「教師へのとびら」とは、教師という職業や教育分野に興味がある県内の高校生を対象に、「高校の 3 年間で大学の 4 年間で教師を育てる」というコンセプトで作られた継続・育成型のプログラムである。参加希望の生徒たちは、1 年生から年 3 回程度の活動に継続的に参加しなければならない。プログラムは、現役教師の講話や大学での講義、模擬教育実習、大学生との交流などの多様なメニューで構成される。また、本プログラムは、アクティブ・ラーニングを手法として取り入れ、各回ごとにグループ作業やプレゼンテーションなどを行わせるだけでなく、各活動で用いた資料やグループ作業で作成した成果物をポートフォリオとしてまとめることを目標としている。そして、継続的に参加し、最終的なポートフォリオを作成した者に対しては修了証を発行する。もちろん、プログラムの参加者には、途中で「実はやりたい事と違った」と感じて参加を辞退する者もいる。しかし、これはネガティブなことではなく、主体的に参加し、様々な経験を通して、将来的に自分が進むべき道ではないと判断して辞退していると捉えれば、大学入学後のミスマッチを抑制することに通じるものである。本プログラムは、文化教育学部、アドミッションセンター、佐賀県教育委員会との連携で実施しており、初年度は県内から 100 名の生徒が参加した。

(分析結果とその根拠)

高校生、保護者、高校教員等を対象とした積極的な対面形式の説明会の実施だけでなく、オープンキャンパスの内容の充実化を図ることで、参加者数の増加という結果をもたらしている。また、大学案内、イメージ動画作成、合格発表掲示板の移動、横断幕の設置、ブランディング戦略など、精力的な情報発信が行われている。一方、高大連携活動では、従来から実施してきたジョイントセミナーのメニューの充実化を図るとともに、168名の教員を高校へ派遣し、高校生が高等教育へ触れる機会を十分に提供している。また、新たな高大連携活動の試みとして、継続・育成型の高大連携プログラムを開発・実施し、県内から100名の参加者を集めるなど、挑戦的な活動が実施されている。

以上のことから、入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されていると判断できる。

観点①-4 入学者選抜に関する調査研究に関する業務が遂行されているか。

(観点に係る状況)

平成26年度は、以下の調査研究を行った(「報告書」を参照)。

- ① H26年度一般入試における志願動向分析(入学試験委員会で報告)
- ② H26年度一般入試学科試験における設問分析(問題作成委員会へフィードバック)
- ③ 入学後の追跡調査
- ④ 学部別の分析
- ⑤ 入試広報の効果検証
- ⑥ 新入生の通学環境に関する分析
- ⑦ 新入生の意識調査
- ⑧ オープンキャンパスに関する分析
- ⑨ ジョイントセミナーに関する分析
- ⑩ 高大連携活動に関する分析

(分析結果とその根拠)

志願者動向やアンケート調査の分析および入試データ分析などを通して、客観的なデータに基づく議論を行うための資料の蓄積ができている。以上のことから入学者選抜に関する調査研究に関する業務が十分に遂行できていると判断できる。

【観点②】 センターの組織運営が十分に行われているか。

(観点到に係わる状況)

平成 25 年度より見直した組織運営のもと、運営委員会は、「(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項」「(2) センターの教員の人事に関する事項」「(3) センターの予算及び決算に関する事項」「(4) 第 14 条に定める企画委員会が企画・立案し実施する事業等に関する事項」「(5) その他センターの管理運営に関する重要事項」に限定し、入学者選抜方法に関するもの、広報、高大接続、高大連携に関するものは各専門委員会で扱っている(資料 1)。今年度は、運営委員会が 3 回、入学者選抜方法等専門委員会が 2 回、広報・高大接続等専門委員会が 2 回実施された。これらの専門委員会の活動を通して、センターの業務が遂行されている。なお、センターの活動等に関するすべての事務は、学務部入試課が行っている。

目的：入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与すること

業務内容：

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. その他入学者選抜に関すること

委員会名称	構成員
運営委員会	センター長、副センター長、専任教員、学部の入試委員
企画委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長
入学者選抜方法等専門委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長
広報・高大接続等専門委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部から選出された教員、入試課長

(分析結果とその根拠)

新しく見直した組織体制の下、PDCAサイクルが機能している。また、専門委員会での活動を通じた業務実績になっていることから、組織運営が十分に行われていると判断できる。

平成 26 年度佐賀大学アドミッションセンター外部評価者用評価

【評価方法】以下の3段階で評価する
「期待される水準を上回る」
「期待される水準である」
「期待される水準を下回る」

1. 教育の領域における評価および判断理由

【観点①】

(評価) 「期待される水準である」

(判断理由)

入学者の学習状況について、入試データだけでなく、教務データ、就職データといった多角的なデータを用いたエビデンスベースの追跡調査が実施されている。また、追跡調査を効率的に実施するための追跡調査システムも構築されており、エビデンスに基づく議論を行うための環境が十分に整えられていると判断できる。

今後は、これらのデータを活用した組織的な検討がなされることが期待される。

2. 研究の領域における評価および判断理由

【観点①】

(評価) 「期待される水準である」

(判断理由)

専任教員1名ではあるが、センター業務と関係する分野において、原著論文3本、報告書2本、学会発表3回の研究実績があり、さらに、関係分野の科研費獲得にも積極的であると判断できる。

以上のことから、センター業務の発展に寄与する研究活動が活発に行われていると判断できる。

3. 組織運営の領域における評価および判断理由

【観点①-1】

(評価) 「期待される水準を上回る」

(判断理由)

入試制度設計の支援は、アドミッションセンターの存在価値を決めるものである。貴センターにおいては、各種アンケート調査の結果や統計分析、情報提供を通して、十分な貢献を果たしており、その成果は特筆に値する。また、入試のPDCAサイクルの機能強化に向けて、「選考・評価実施要項」を取りまとめていることは、個別大学入試における説明責任にも十分に対応できるものである。

以上のことから、入学者選抜の制度、方法等の設計に関する支援が期待される以上に行われていると判断できる。

【観点①-2】

(評価)「期待される水準を上回る」

(判断理由)

高校生、保護者、高校教員等を対象とした積極的な対面形式の説明会の実施だけでなく、オープンキャンパスの内容の充実化を図ることで、参加者数の増加という結果をもたらしている。また、大学案内、イメージ動画作成、合格発表掲示板の移動、横断幕の設置、ブランディング戦略など、精力的な情報発信が行われている。一方、高大連携活動では、従来から実施してきたジョイントセミナーのメニューの充実化を図るとともに、新たな高大連携活動の試みとして、継続・育成型の高大連携プログラムを開発・実施し、県内から100名の参加者を集めるなど、挑戦的な活動が実施されている。

以上のことから、入試広報や高大連携活動に関する業務が期待される以上に遂行されていると判断できる。

【観点①-3】

(評価)「期待される水準である」

(判断理由)

志願者動向やアンケート調査の分析および入試データ分析などを通して、客観的なデータに基づく議論を行うための資料の蓄積ができています。また、研究の領域でも十分な研究が実施されていることが確認できます。

以上のことから、入学者選抜に関する調査研究に関する業務が遂行されていると判断できる。

【観点②】

(評価)「期待される水準である」

(判断理由)

従来の課題点を整理し、平成25年度より新しく見直した組織体制の下、各専門委員会の役割に応じた業務実績になっており、組織運営のPDCAサイクルが機能している。以上のことから、センターの組織運営が十分に行われていると判断できる。

外部評価者：九州大学基幹教育院 人文社会科学部門

准教授 氏名 木村拓也

